

祝 700号

標高700mからの景色

公民館報
第700号



令和4年3月15日



名子井(西山)



700mの等高線が横切る川



八丁田(下峠)



公共工事ラッシュ
町が変貌し始める



S36年 三六災害記事



S34年 新生松川町誕生
生田村と合併



公民館報第1号
松川町誕生

昭和40年

昭和31年

待望の公民館
建設始まる

昭和43年まで 町の広報と公民館報の両方の役割を担う

- ・S38年～公民館研究集会
 - ・S39年～青年問題研究集会
 - ・S40年～婦人集会
 - ・S52年～健康を考える集会
 - ・S57年～福祉を考える集会
- それぞれの集会からの学び、課題解決へ取り組む、町への提案に結びつける

平成10年



第402号～第449号
(H9.4～H13.3)
【町のコケ】



第450号～第485号
(H13.4～H16.3)
【町の小径】



第615号～第626号
(H27.1～H27.12)
【果樹栽培百年】



H20年 地域福祉活動学習



H18年 町民運動会が盛んな頃

平成20年



第628号～第653号
(H28.2～H30.3)
【まつかわ百景】



第510号～第614号
(H18.4～H26.12)
【まつかわ百景】



第486号～第509号
(H16.4～H18.3)
【まちなちの樹】



H16年 合併協議時期
大鹿を知ろう



平成13年
全国優良
公民館受賞

平成18年4月～平成30年3月迄町の広報誌と合冊

昭和31年9月に第1号が発行されてから今年が65年目となります。長い歴史を経て700号を発行することになりました。上記掲載の館報の歴史を振り返り、これまでの歩みと、様々な課題に対する思いが館報を通じて走馬灯のようによみがえってまいります。発行当初から10年余りは町の広報と公民館報の役割を果たしていましたが43年「広報まつかわ」が発刊され、それぞれ独立した立場から発行されるようになりました。当時は町づくりへの町民の思いや提言が掲載され公民館報が重要な役割を果たすとともに町づくりへの関心の高さを感じます。平成18年4月から30年3月まで、広報まつかわと公民館報が一緒の冊子となりましたが平成30年4月から公民館の独自性を考え再び分離された冊子となり現在に至っております。紙面の「人権問題を考えるみんなで仲良く」のコーナーには小中学生から作文や詩、俳句など寄稿いただいています。純粋で飾らな

700号
発行にあたり

歴史をかさね松川町公民館報700号

◆時代背景を振り返りさらなる魅力ある館報へ◆



第112号～第119号 (S47.8～S48.5) 【町の産業と労働】

S48年 公民館研究集会テーマ

町長と公民館部員意見交換

S47年 モーター建設反対

昭和44年以降 独立した公民館報として

S45年

昭和50年

第120号～第138号 (S48.6～S50.4) 【町の史跡】



第139号～第174号 (S50.5～S53.4) 【町の石像】

S56年 生田診療所閉鎖住民の声

昭和60年

平成元年



第175号～第210号 (S53.5～S56.4) 【町の仏像】



第211号～第341号 (S56.5～H4.3) 【町の植物】



S57年 社会教育施設新設への思い

S61年 ゴミ問題が再燃

第342号～第401号 (H4.4～H9.3) 【町の蝶】



第654号～第***号 (H30.4～R***) 【町の川】



コロナ特集

映画実りゆく

飯田線開通100周年特集

令和2年 全国館報コンクール 銀賞受賞

平成30年4月～公民館報としての独自性を考え広報誌と分離 現在に至る

い作文や詩、俳句に胸を打たれるものが多く、私たちが大人が気づかされ、考えさせられることがあります。

700号は県内でもまれにみる多い発刊数です。ここに至る間、多くの町民の皆様にご協力いただき感謝いたします。又ここまで多くの編集部員の皆さんには、毎月、企画く取材く割付く校正をへて発行にこぎつける多くの手間と時間に仕事をしながら献身的に貢献をいただき心から敬意をいたします。

町内の情報も時代と共に入手方法も多岐にわたっています。公民館報としての基本的な立ち位置を基に、町内の話題や課題への思い、地区公民館活動、生涯学習活動などの情報発信はもとより、歴史を振り返り学び伝える役割を果たす事も大切なことと思っています。公民館報だからこそできる情報発信の手段として、今後も伝統ある「館報まつかわ」が町民の皆さんから親しまれる公民館報となるよう努めて参ります。ご意見などお寄せいただければ幸いです。

公民館長 山崎 隆

歴代部長より



まつかわ百景
「ふじ祭り」
本報は遠征取材を経て掲載された。
市民の関心も高い。販売する分にはいろいろの調整が加えられた。

本紙を制作する中央公民館編集部で過去に部長を務められた3人の方より700号をむかえたことに対する思いを寄せていただきました。

S46・S47部長

大久保 富司男さん

館報まつかわ700号おめでとうございます。昭和46・47年部長経験者ということで祝寄稿を依頼され光栄に思うとともに当時の事を150号発行記念縮刷版片手に思い出してみます。昭和40年度に拜命の頃には広報の性格もあり、当時およそ隔月だった発行をほぼ毎月発行とし、編集後記を「べんべん草」と名付け文責を入れて部員の考えを表明するようにしました。また112号から1面に写真を入れて説明文(詩)を入れてシリーズ化し「町の産業と労働」とし町民の生活(仕事)を紹介しました。先輩から引き継いだ精神、記録性、公民館活動から生じる他人への思いやりを出せればよいと思っていました。当時の研究会からスタートした「〇〇を考える集会」も地に着いた活動をしていて公民館活動も増々発展することと思、部員の皆さんのますますの御活躍をお祈りします。

S62 H8部長

牛久保 守さん

ホツとする場面
我が家ですべての新聞の一面の片隅に、ペットの写真ととわがが載っています。その写真とことわがが妙にマッチしていて、ペットの愛らしい姿に、思わず微笑んでしまいます。新聞の一面には、とかく難しい時事問題や華やかな話題が多く掲載されがちですが、このような日常の穏やかな記事がある、なぜかホツとするのも確かです。私が公民館編集部に入ったとき、ちょうど増野地籍にモーター計画があり、手書きの号外を出したり住民アンケートをとったりと、公民館の閉館時間が過ぎても作業が終わらず、個人の家へ移動して夜中まで作業をしたこともありました。しかし、大変な作業の中で人とのつながりが広がったのも確か、それからの私の宝になりました。館報の一面に大きく写真が掲載されています。この写真を見ると、なぜか懐かしい思いに駆られます。住民の目線で見ると色々な問題や思い、文芸、人の紹介も館報ならではのですね。

H4・H9部長

宮沢 雄治さん

激動の「昭和」から「平成」に、そして「令和」へと町の皆さんの様々な「考え」「活動」「生活」等など、それぞれの時代の移り変わりを記録され綴られた館報「まつかわ」、発行700号の歴史の中から一部をつなぐお手伝いが少しでも出来たかも知れません。でもこんな私が公民館編集部にお世話になった最初のころは「館報」「広報」の違いもわからないくらいの輩でしたので、これは大変なところに足を踏み入れてしまったと、素人ながらにも思ったものでした。そこから初めて「企画」「取材」「編集」「校正」など、先輩方々にそれこそ手取り足取り教えていただきました、なんとか半人前くらいにはなれたかも? うれしめせん。又、これをふくめ編集や取材をさせていただいた方々との出会いは私にとっての大切な「財産」となりました。最後にりましたが、この終わりの見えないコロナ禍の中、終息を願い、「公民館報まつかわ」が、輝かしい未来への記録となれば幸いです。

館報まつかわ 受賞歴

【平成24年度】
第4回全国公民館報コンクール
優良賞

【平成26年度】
第5回全国公民館報コンクール
特別賞

【平成28年度】
第6回全国公民館報コンクール
奨励賞

【平成30年度】
長野県公民館写真コンクール
優秀賞

【平成30年度】
第7回全国公民館報コンクール
奨励賞

【令和2年度】
長野県公民館写真コンクール
入賞

【令和2年度】
第8回全国公民館報コンクール
銀賞



銀賞以上に授与された楯の表彰状

令和3年度 公民館功労者表彰



木下 亜由美 さん
中央公民館



関 優那 さん
中央公民館



神田 康憲 さん
中央公民館

中央公民館・各地
区公民館の活動にご
尽力された11人が表
彰されました。



高橋 純一 さん
古町地区公民館



平島 高之 さん
古町地区公民館



赤須 圭一 さん
大島地区協議会



佐々木 文弘 さん
上新井地区公民館

公民館。少し大袈裟に言うくと、第2の人生のきっかけでした。年齢問わず新しい仲間・知らなかった地域・色んな社会教育。とにかく、楽しく新しい発見ばかりでした。元々、興味・関心・好奇心の塊の私にとって公民館は全て学びの場所でした。気が付けば希薄になった世の中。時代の流れ、変化と共に公民館も進化はす

公民館を終えて



下澤 綾子 さん
上大島地区公民館

仲間がいたからこそ出来た事もあります。残念ながら、コロナ禍ということもあり実践的な活動はできませんでしたが協力して考えるという貴重な体験をしました。中央公民館はじめ、全ての公民館関係者の方々ありがとうございました。今後、どのような形で地域貢献できるか分かりませんが学んだ事を大切にしつつ、我が子達が社会人になった今、第2の人生を楽しんで生きてい

るべきであるとは思いますが根底となる社会教育の大切さは継続すべきであると再確認しました。地域との関わり方、コミュニティの在り方、自分が今後どのように地域貢献できるのか考えさせられました。1人で出来ない事でも、地区公民館の



吉田 寛行 さん
上新井地区公民館



大場 政輝 さん
上大島地区公民館

第1回 地域を知る講座

情報

部奈の台地を巡る

日時：4月23日(土)

- ・午前8時30分
- えみりあ集合
- マイクロバスで部奈へ
- ・12時解散予定

春の部奈を散策するコース

前田諏訪神社・オの神の石仏群・前田遺跡・展望公園・部奈さとやま自然公園 他



定員30名 参加費は無料
申込先 中央公民館まで

人気の英会話教室！
5月からスタート予定です！

	一般コース (中・上級)	テキスト コース (初級～)
開講日	第1・3木曜日	第2・4木曜日
受講料	無 料	
教材費	なし	3,000円程度

E-mail : c.kouminkan@town.matsukawa.lg.jp



こんにちは、講師のケンケン(殿倉健一)と申します。

外国の文化から日常会話まで幅広いお話をしたいと考えています。

多くの皆さんと楽しく英語の勉強、英会話をできるのを楽しみにしています♪



松川
中央小学校

聞く心 人権を守る 第一歩
 議論という パズルのピース つなげれば
 かならずよくなる 世界を照らす
 (6年 杉山 太二)

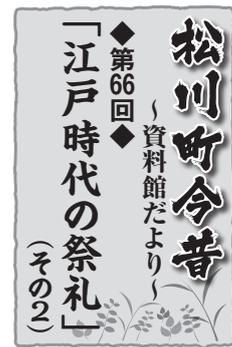
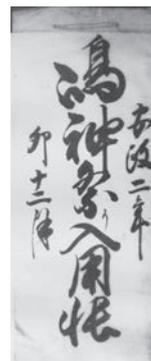


いじめはね すごくだめだよ ひどいから
 いろいろな こせいがああるよ 世界じゅう
 (3年 川瀬優姫羽)
 しんゆうは けんかをしても なかなかおり
 (3年 下島 陽葵)
 それぞれの 個性があるから おもしろい
 (3年 下澤 悠留)
 (6年 渋谷 卓哉)

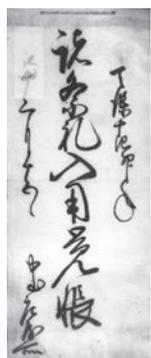
〈部奈村峠分〉安政2年(1855)

No.	祭礼名	祭礼月日
1	酉祭り	2月10日
2	稲荷祭り	3月16日
3	白沢祭り	6月7日
4	稲荷祭り	7月16日
5	嶋神祭り	8月1日
6	疱瘡礼祭 痢病礼祭	8月1日
7	権現祭り	9月9日
8	大神宮祭り	9月16日
9	?	10月7日
10	金毘羅礼	10月10日
11	秋葉祭り	10月16日
12	八幡宮祭り	11月15日
13	愛宕祭り	?
14	神送り	?
15	日待	?
16	礼祭	?
17	鎮礼祭り	?

沢祭り「嶋神祭り」「酉祭り」
わかる祭りもあります。「白
「権現祭り」など、私たちでも
り「秋葉祭り」「金毘羅祭り」
「鎮現祭り」など、私たちでも
わける祭りもあります。「白
祭り」など、私たちでも



福与村の中山分について
は、池上家の古文書の中に、
すべての祭りについて、右の
写真のように、「諸祭礼入用
覚帳」とまとめた帳面があり
ます。そこに書かれている祭
りは、下の表のような祭り



「鎮礼祭り」などどんな祭り
なのかわからない祭りもあり
ます。一年間にかんりの数の
祭りがあつたことがわかりま
す。ほぼ毎月行われているこ
ともわかります。月日が書か
れていないものの中には、祭
りというより、人々の集まり
で、回数も何回かあつたもの
と思います。前回書いたよう
に、一回一回代官所へ届出て
いたかという、おそらく村
内だけで了解して、やつてい
たのではないかと思います。

〈福与村中山分〉天保14年(1843)

No.	祭礼名	祭礼月日
1	金毘羅祭り	3月10日
2	稲荷祭り	3月16日
3	天王祭り	6月14・15日
4	稲荷祭り	7月16日
5	明神祭り	7月17日
6	風祭り	7月20日
7	鎮礼祭り	8月27日
8	大神宮祭り	9月16日
9	秋葉祭り	11月15日

す。峠分と比べると少ないの
ですが、色々な祭りが、行わ
れていることがわかります。
そして、峠分と同じ祭りとし
て「金毘羅祭り」「稲荷祭り」
「大神宮祭り」「秋葉祭り」「鎮
礼祭り」などがあります。ま
た「稲荷祭り」「大神宮祭り」
のように、祭りの実施日が同
じ祭りもあります。そして中
山分独自の祭りとして、「天王
祭り」「明神祭り」「風祭り」
の3つが挙げられています。
峠分に記載されている祭礼月
日の書かれていない、村民の
集まりのようなものもあるか
もしれませんが、記載されて
いません。
どちらの村も12月に、一年
の祭りの費用を整理計算し
て、集金していたものと思わ
れます。次回その内容につい
て紹介します。(続く)

松川町資料館
伊坪 達郎

す
ほっと



木片ペイント



楽しいひと時

12月14日に上片桐児童館、北小放課後子ども教室合同のクリスマス企画が行われました。

企画内容は六つと盛沢山、児童が自分のやりたい企画に参加して行われました。

紙飛行機づくりは、自分の作りたい飛行機の折り方の手順を見ながら夢中で作っていました。東京オリンピックでも人気となりましたポッチャを体験。コートこそ狭かったですが公式認定のポッチャを握り、重さを感じながら4チームに別れ試合が行われ大盛り上がりでした。絵手紙は素材を見ながら思い思いの感性で書かれてとても素敵な絵手紙となりました。

北小放課後子ども教室の松村先生は「合同クリスマスがわくわくして待ち遠しいと言う子ばかりでした。地域や公民館の皆さんのご協力のおかげで楽しい充実したひと時がすごせました。ボランティアで指導して下さいました皆様に本当に感謝です。」とおっしゃっていました。



紙飛行機づくり



フェルトポーチ作り

公民館としても今後もこのような企画のお手伝いを継続していきたいと考えています。

しゅんぎふ

松川北小学校

日頃から

探してみよう

いい所

守藤 賢人

自分でね

空気を作れば

いいんだよ

関島 絆愛

一人一人

意識をすれば

いいんじゃない

いじめつ子

何がそんなに

たのしいの

大澤 ひまり

仲良しに

けんがなくそう

やさしくしよう

矢澤 蒼良

俳句

春きざす

西澤 清子(中荒町)

春立つや

さまざま惑い聖火燃ゆ

伊那谷の

夕暮れ匂う栗の花

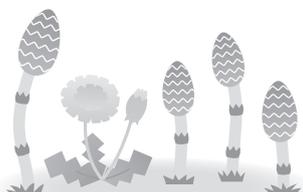
春光や

アートの如き浮かぶ雲

天心に響く槌音春きざす

思い切り

ショートカットに春隣





心の 趣くままに

清水壽子さん



幼き日々

「絵は小さな頃から好きだったのですか？」
 「いいえ、それほどでもなかったんですけど」
 それからお話しを伺っていき本格的に始められた頃の事を話していただきました。
 単身赴任のご主人の元に行かれて2年くらいの間は、何

「高名な方とかいらつしやいますが、私は特別気にすることはありません。名も無い小さな画廊で自分の好みの絵を探して歩くのが好きです」
 清水さんは自宅の庭のお花を描くことが多いそう。私にもわかる花がたくさんあって、それが清水さんの絵の魅

昨年の秋。燃えるような真赤な紅葉にはまだ物足りない、煉瓦色の葉が揺れる小路を歩いて小ぢんまりとした美術館へ。
 静謐という表現がそのままじっくりとくるその場所に清水壽子さんがいらつしやいました。絵を拝見しお話しをして「ひと」には清水さんをと勝手に決めてようやく実現しました。

「お好きな画家の方とかは？」
 「絵を描いたら？」と云ってくれたそう。そのひとで絵を描き始められたそうですが：天賦の才をお持ちなんですね。(私ならへのへのもへじ確定)

をするということもなく生活されたそうです。そんな時にご主人が
 「絵を描いたら？」と云ってくれたそう。そのひとで絵を描き始められたそうですが：天賦の才をお持ちなんですね。(私ならへのへのもへじ確定)

力となつていっているような気がします。
 大変残念ですが、ご主人はお亡くなりになりました。でも私には清水さんの描く一筆一筆にご主人の見守りがあふれているように思います。
 カラーページで魅力が伝わりますように。



月光



雨上がりに

春休み、私は子どものころ毎年3月下旬の5日間ほど、横浜の親戚に遊びに行くことが恒例となっていました。目の前には漁船港。富士山も見えるところで「なんていいところなのだろう」と行きたびに思っていたものです。あちこちの動物園や水族館に行ったり、都会のデパートに行ったり、初めてデイズニートランドに行ったのも、この春休みでのことです。
 5日間の旅で、行きと帰りにそれぞれ1日必要になります。中3日間は全てどこかへお出かけ。泊りは親戚の家なので宿泊代もかからずと、かなり贅沢なことをしていたものです。
 とても良い思い出ですが、自分子どもには残念ながらそのような経験はさせてあげられていません。
 貴重な春休みをどう過ごすのか、たとえコロナ禍でも、ただおとなしくしているのではなく、工夫して過ごしたいと思えます。

光澤 正之



公民館報
「まつかわ」
 第700号
 令和4年3月15日
 発行所 松川町公民館
 責任者 山崎 隆
 編集人 公民館編集部
 Tel 36-2622
 e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp
 飯田市上郷黒田121
 印刷所 龍共印刷株式会社

再生紙を使用しています。